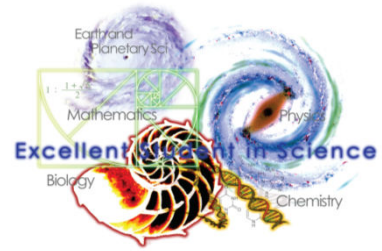


01

第一回公開講演会



九州大学
世界に羽ばたく未来創成科学者育成プロジェクト(FC-SP)
知的探求型プログラム(ESSP)



とき:平成29年11月18日[土]14:00-16:00(予定)
ところ:九州大学 伊都キャンパス
ウエスト1号館(理学系総合研究教育棟)C棟4階 大会議室

a_

素粒子と宇宙の謎に迫るー国際リニアコライダー計画ー

物理学

物理学専攻
修士課程 2年 山城 大知

2012年にLHCで質量を与える粒子である「ヒッグス粒子」が発見され、標準模型が完成しました。しかし、まだ素粒子と宇宙に関する未解決の謎が残っています。これを解き明かすためには、実験的に新物理の発見が必要です。このため、国際リニアコライダー(ILC)は次世代の電子陽電子衝突エネルギーフロンティア加速器として、世界中の研究者の国際協力のもと研究開発・設計が行われています。今回は、ILCで期待されるヒッグス粒子などの研究と新粒子発見の可能性、ILCにおける測定器、およびILC計画を実現するための取り組みについて解説します。

b_

治療法を数学のことで見つけ出すー花粉症免疫療法の数理モデルー

システム生命科学

システム生命科学専攻
一貫制博士課程 2年 原 朱音

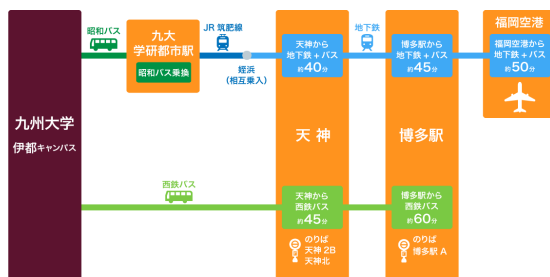
数理モデルは、数式を使って様々な現象を表現するというひとつの研究手法です。数理モデルを使ってコンピュータ上でシミュレーションを行うことにより、実際に観測せずとも現象のなりゆきを予測することができ、さらに様々な条件を試して結果がどう変化するかを観察し、何が一番大切な条件なのかを調べることができます。私は生物分野で、特に花粉を摂取して花粉症を改善するという治療法を題材として数理モデル研究を行ってきました。生物現象を題材とした数理モデル研究とはどんなものなのでしょうか。アレルギーのような疾患に対して、数理モデルという方法で挑む利点とは何でしょうか。私が行った研究を例として紹介しながら、高校生のみなさんと一緒に考えます。

※公開講演会:一専攻につき、講義40分 質疑応答15分

今後の講演予定	2017年12月16日(土) ※化学、地球惑星科学、数学に関連した講演です。	谷本 勝一(大学院理学府博士課程化学専攻) 延寿 里美(大学院理学府博士課程地球惑星科学専攻) 岡崎 勝男(大学院数理学府数学専攻)
---------	-------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------



QRコードより
アクセスマップを
ご利用下さい。



- JR
 - ・「JR博多駅」→(地下鉄空港線)→「姪浜駅」(JR筑肥線へ乗換)→「九大学研都市駅」→昭和バス→「伊都キャンパス」
 - ・「JR博多駅」→西鉄バス→「伊都キャンパス」
- 西鉄
 - ・「西鉄福岡駅」→(地下鉄空港線)→「姪浜駅」(あとはJRの場合と同じ)
 - ・「西鉄福岡駅」→西鉄バス→「伊都キャンパス」
- 天神バスセンター→(地下鉄空港線)→「姪浜駅」(あとはJRの場合と同じ)
- ・天神バスセンター→西鉄バス→「伊都キャンパス」

お問い合わせ

九州大学理学部等学術企画係
電話:092-802-4011
Mail: essp@sci.kyushu-u.ac.jp

九州大学伊都キャンパス
〒819-0395 福岡市西区元岡744 電話/092-642-2111(代表)